

# 福祉サービス第三者評価の結果

## 1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 平成30年8月22日から平成31年2月18日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 061163 B25108	

## 2 福祉サービス事業者情報（平成30年4月現在）

事業所名：玉川どんぐり保育園	種別：保育所
代表者氏名：市川 雅朗 園長：五味 一男	定員（利用者数）：210名（201名）
設置主体：茅野市 管理・運営主体：（福）信州福祉会	開設年月日：平成18年3月31日
所在地：〒391-0011 長野県茅野市玉川 2213 番地 1	
電話番号：0266-82-5588	FAX 番号：0266-82-2600
ホームページアドレス： <a href="http://k19.shingakukai.or.jp/">http://k19.shingakukai.or.jp/</a>	
職員数	常勤職員：22名 非常勤職員：15名
職員内訳等	保育士：24名 事務員：1名 調理員：外部委託 常勤職員の平均年齢：23.6歳 平均在職年数：4.7年
施設・設備の概要等	乳児室：1室 ほふく室：1室 保育室：9室 調理室：1室 事務室：1室 遊戯室：1室 調乳室：1室 子育て支援室：1室 園庭：1.320㎡ 屋外遊具：鉄棒、ブランコ、砂場、 コンビネーション遊具、特設プール

## 3 理念・基本方針

<p>○ 理念</p> <p>法人の教育理念「礼節・忍耐・誠実」を教育の基本理念に捉え、「ハイ！」とはっきり返事の言える子、最後まであきらめずに「できた」という喜びの言える子、「ありがとう」と心から言える子を教育の目標としている。</p> <p>○ 園目標</p> <p>元気いっぱい 笑顔いっぱいのおひさまっ子のキャッチフレーズの下に、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 明るいあいさつ にこにこ笑顔のおひさまっ子</li><li>・ たくさん遊んで まっかなおひさまっ子</li><li>・ 話の聞く力の高い 心豊かな かしこいおひさまっ子</li><li>・ 友だちの中で育つ やさしく たのもしのおひさまっ子</li></ul>
---

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

園目標の具現化のために、

- ・登園・降園や保育の中で愛護の声掛け
- ・早寝・早起き、食生活などの生活リズムを大切にされた友達や集団での遊び、体育活動
- ・担任による毎朝の読み聞かせや歌などの表現活動による、五感育成
- ・豊富な自然を有効活用したり、主体的な異年齢交流やお泊り保育などの友達との関わりを重視した保育に努めている。

## 5 第三者評価の受審状況

初回

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添 1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

- a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
- b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
- c：b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

### ◇ 特に良いと思う点

#### ○ 園目標と保護者ニーズが合致する保育

玉川どんぐり保育園では、専科の音楽で鍵盤ハーモニカの指導や太鼓の指導、体育では縄跳びの指導（以前は器械運動）の他、年長では英語、iPadの指導がある。

また、地区のサッカークラブによる定期的なサッカー教室もある。

そのため、幼稚園が私立一つの茅野市の保護者にとって、専科活動のある保育園の需要は高い。

そして、朝の自由時間や10時までの園庭での運動も盛んで、その運動は月ごとに体操の内容を変え、最後に園庭をクラスごとに十分走ってから部屋へ戻るといった体力づくりが行われている。

その後、絵本の読み聞かせを行い、降園時にはクラス入口に毎朝の読み聞かせの本を掲示し、保護者絵本の日や行政事業ではあるがボランティアによる月1回のわくわく絵本の日もある。

これらは、園の目標の具現化の取り組みの一つと理解する。

園は住宅街と目前に広がる田園風景に囲まれ、隣は消防署という恵まれた環境にあり、毎朝、園児の登降園時間になると園長が入り口に立って元気のよい挨拶で子どもと保護者の送迎に立ち会い、保護者アンケートでも職員ともども笑顔が良いと好評である。

また、毎月のクラス便りでは当月の狙いを掲載し、保護者等が見通しのある子どもの姿を想像することができるようにし、定期・随時のどんぐりだよりの発行で、家庭等でも綴りやすくするなど、とにかく忙しい保護者等への配慮もある。

一日保育士体験では母親だけでなく父親の参加もあり、園での子どもの様子を知ることにより、園の保育の理解を進め、家庭での保育との差異が無いように努めており、年間100名を超える保護者が参加している。

そして、毎月の誕生会には保護者へ招待状を出し、他の子どもとも一緒に祝っており、その参加率も高い。また、運動会の際は、場所取りなどの混乱を防ぐため、抽選番号順としている。

近くの高齢者施設や学校訪問、中学生の保育体験や看護学校生徒の実習なども多く、ありがたい日には日頃お世話になっている外部委託の調理師や納入業者などへ手作りのカレンダーを送っている。

また、おひさまの日には、園の裏にある畑での野菜作りを行い、地域のおひさま畑応援隊（畑おこしや苗植え等の協力・管理）と一緒に植えたたくさんの野菜の収穫なども行っている。

そして、小泉山登山、お泊り保育、組体操、鼓隊、音楽会などの活動のプロセスも加わり、年長になる頃には基本的な生活習慣の習得も済み、子どもの育ちに感激する保護者の姿が想像できる。

市の第二次食育推進計画の保育園における給食での取り組みとして、保育士・栄養士による食育指導の充実、希望献立の実施、よく噛むことができる献立を活用しその習慣をつける、おやつ必要性、撮り方、内容についての指導、毎月19日は元気もりもり食育の日と定めており、調理は業務委託ではあるが、諏訪地域の郷土食として、豆腐寒天、フルーツ寒天、枝豆ののたもち、えごまのた、鯉の甘露煮、わかさぎの甘露煮、かきひき大根などのメニューなどが用意されている。

これらの食育や健康づくりとともに、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力などの非認知能力と、そこから生み出される文字を読む力、数を数える力などの知識・技能の認知能力の発達に注力しており、保護者の求める保育内容の提供が行われている。

#### ◇ 特に改善する必要があると思う点

##### ○ 課題意識の醸成

公設民営で地区の保育協会に加入しており、様々な制約があるなかで保護者からの鼓隊の希望が多くあり、これに関しては実施が可能となっている。

そして、保小連携も良好で進学後の子どもの課題なども共有している。

しかし、課題を課題と意識していない面があると思われる。

どのトイレのスリッパも気が付いた子どもが整理したり、読み聞かせの際の姿勢や年少・年中・年長児がのどが渇いた際の水道の蛇口からの飲み方、次の活動に向けた時間の区切りなどである。

どのような子どもでも、大事な事はなかなか身に付かないが、どうしてもよい事は子ども同士で自然と共有し、習得して行くものである。

どこかで区切りをつけるという意識を持った保育を行い、異年齢交流をさらに増やして、年少・年中児が年長を見習える機会を増やす必要を感じる。

子どもの模範となるべき保育士自身の専門職としての自覚も更に高める必要もある。

そして、代替えの際は事前にクラスの様子を伝え、後程、当日の様子を聞く仕組みとなっており、書類の整理とともに必要な書類の点検・見直しも必要である。

つまり、担当保育士が週案・日案に沿った当日の保育内容を細かく指示して渡し、代替え者からは当日の保育内容の記録、延長保育の際のグループや一人ひとりの保育内容の延長保育日誌、園外研修の際の資料とともに報告書の提出と併せて園に活用できる提案など、実施した事を活かせる仕組みである。

そして、ハード面の問題もあるが保育環境の向上も必要であろう。

当然、園全体の保育のねらいと内容がわかる0～5才児までの系統的な保育計画の作成や、保育の標準となるマニュアルの整理で職員全員の共有化を図り、質の向上への注力も期待したい。

専門性を高める保育技術等の理解・習得も必要だが、子どもと保育士との生活を共にした中で、子ども達の関係性を更に高めて、子どもと保育士がお互いに学び合える保育を目指したい。

一人ひとりの子どもの強みを伸ばすとともに、こだわりの強い子どもを活動の切り替えが苦手、食事が進まず他の子どもの片付けが始まってしまう子どもを次の生活（行動）への意識が少ない、みんなと一緒に遊ばない子どもをその遊びがもう面白くないと感じているなど、保育に活かせる言葉に変換して意識することで保育の手立てが視えてきて支援もしやすくなり、そして、生活に自由度や主体性などの問題を感じたとき、保育士の新たな関わりで、子ども同士の関りや学びも加わり、併せて、保育士も成長できると理解したい。

そのためにも、保育士の質の向上に欠かせない研修を従来型の伝達研修から、職員が相互に対話して主体的に学ぶ協働型の園内研修へと進化させるなど、子どもにとってどうかという視点を持った経験と知恵に基づく工夫を更に加えて、子ども一人ひとりに向き合うための研修が期待される。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

玉川どんぐり保育園は茅野市の公立保育園との連携を保ちながら、今後も市立の保育園としての独自性も工夫して運営していきます。

今回、第三者評価をしていただいたことから、目頃の保育の良さと改善の課題を客観的に整理することが出来ました。この機会を活かして、さらに魅力ある保育園となるように、保育上の専門性の向上を目指して、主体的に学ぶ研修を重ねていくことと、新しい保育指針に沿って、地域社会、保護者の願いを受けて、発展していくように、開園から13年間で財産となってきたものを活かしながら職員が協力して新たな一歩を進めたい。